

✕

k 21



東京醫學堂

CD1



上古之人内傷ノ病ナシ只患フルトコ只外邪
 ナリ東垣内傷ノ一ヲ論ス此非ナリ
 經曰上工治未病トコレ治ト云フモノニ
 非ス人ノ常ナリ人良モ石飽起居常アツ
 テ自ラ形固ケル外邪モ傷ルナラズ此
 ヲ未病ヲ治ト云フ此レ今ノツ子ナリ如
 此ナルコトアタワズシテ外邪相害ス故ニ
 毒業ヲ以テ其邪ヲセメ治ス此レ上古
 ノ業ヲ用ル意ナリ是故ニ医ニ字ニ又矣ニ
 作り巫ヲ下ニ加ヘ或ハ酒ヲ加フハ^{F上}是後世

490.9
 Ka-5
 2

No. 2480
 12 K 21



富士川文庫

149

二

ノ作ナリ只始ハ段ナリ
古法一升今ノ一合ノ如余ナリ宋ハ大
サニノツモリナリ計此今ノ七十目ノ
内外ニアタルナリ

三

諸薬ノ主能ハ本経ヲ主トスルニ非ス後世ノ
人モ用ヒ覺ヘアリテ一藥ニトルバカ
ラズ

四

道三先祖一侯翁道三香蕪散ヲヨク遺
ヒヲボヘテコレヲ本トシテ治療ヲ施レ
タリコレ積氣ノ所一心ハツカ子トモ諸

病皆當スル所ヨリ生スルト云テ知テ

メクカストコロヲ主トシテ用テレタリ

然レトモ香附子ハ病人ニヨツテノミニク

三紫蕪モ香氣ニアリテ所アツテ陳波ト

モニヒトシク印又ルリ且或ハ用カタク

アアリ耳牒ヲ日本テ入ルコレ道三

ノ發明ナリを東垣時代ヨリ減半ト云テ

アレドモソレゾモ日本ノ人ニハアワヌ

ナリ其香蕪散ヲ用ヒ諸病ヲ順氣ヲ
カモニスルヲ其才云送ノ下ニナシ今我家ニ

家方順劑ハ私ニ其意ニモトツキ後後ハ
順氣ノ主藥半夏ハ滯ヲ去リ胸膈ヲ利
スルナリ枳實厚朴ハ古今氣ノ方中
ニアルヲ以テ世医コレヲ忌ムコレモトク
知ラヌナリ先氣ト云フ名ニ付テ見ル
ベシ氣ハ邪ノ氣ナリ邪氣ニ氣順シテ
メグラス所アルナリ元則害氣乃制ノイキ
カダナリ元ハ邪氣ナリ故ニ此ノ四味ヲ桂
トシテ用ルヲナリ其上香薷散表ヲメグ
ラスナリ又順劑ノ如キハ微上微下内外

五

トシテメリラヌトコロハナキナリ

脊骨ヲハサム灸骨ヲヒクニトルニ行
ハ灸ハ高ニントル骨ノ性ニシタガハナリ
然レドモハサレニシテ左右ニ

高下モアレバーヘンニトルベカラス唯穴ヲ

得テ點スベシ三輪ノ骨ヲハサニ耳目

口疼ヲタメニヨシ

六

潤劑ニ麦門冬ヲ專ツカヘトモワル

クテノミニツキモノナリ知母ハ其根

ヲヒテ上ニシテ又根ヲムスフナリ

モ水ニヒタセバウルカヘリ後世知母黃
栝トツカヘドモ黃栝トアハセツカフ
菜豆ニハ非ルナリ

○七

括婁仁ヲツカヘトモ是ハ油リサキ氣味
アツテ菜ニモ油ウキ且世時ツカワレ又
モノナリ故ニ根ヲ用テヨシ

○八

音ノサケ吹キ出モノナルハ半夏ヲ
用ヒヌカヨシ

○九

僧ノ病ヲ療スルニ肉食ヲスルコト

アリ合点セザルモノアリコレヲサトス

ニハ文殊門經ヲ引テ云フガヨシ日連宗

ナレバ中山開山小湊ノ延生寺土岐日常

七代妻帯肉食セウレタリシト云フテ

キカスベシハ代目ニ清僧ニナリテ器量

ヲトリシトカヤコノ延生寺六日連ノ出

○十

安田某ト云ヲ送來リテ云フ病婦五十歳

六七年来臍下一面ニ血積アリ常ニ癸明

ニシテ氣ヲツカフコトヲシ向井氏父

子ノ茶數百貼服シテ其驗ナシ灸ヲズレ
バ快ク覺ユトコノヲ以先生ニ診ヲ請フ
先生曰此婦必スウニスナラント曰然リ
ウマスニ血積アルヲ必セリコレ必治シ
唯シ當分ノ瘀血ナラハ桃仁承氣或ハ水
蛭蠅虫等ヲ用ユ後世ニテハ四物湯ニ桃
仁紅花ナドニテ治スルヲモアラシカ
血積ノ如キハ藏府ノ間ニ位シテ借屋ガ
ヲモヤニナツテ居ルユヘ中ニ下サレ又
ナリ万ニソレヲ下セバソレナリニテ

○土

アトノスキ間ガミタ又ナリコノヲ以テ
着レバヤハリ其ニヨキテ長壽ヲタモ
タヌヤウニスルガヨシ療治ダテハセ又ガヨシ
然レトモ河越ハ川ニテ果ルタドヘニテ
終ニコノ血積ガ命ヲトルナリ然レト
此レゾ急ニ治セントスルハ甚タアヤシ
又肝經ハ厥陰ニシテ厥陰ハサ陽ト對メ
ナルナリ厥ハサガノボルナリ陽ノ性ハ
ノボルモノニシテ陰中ニアリ北方坎ノ
卦ノ中ノ一畫コレスヤウニヤ陽ナリ地

ハ大ニ厚ツキモノナレトモ天ノ中ニ
ヨツトウイテヲルハ純陰ノ中ニモ陽氣
アルユヘナリコレヲ抑肝平肝ト云フハ
皆發生ノ氣ヲツジツ勢カタアルナリ
肝全ヲ舒暢サスル下ヲシテ又ナリ其ハ
舒暢ハコレ助ケ長シテヒキノバスイキカタ
ニ非ズ又所謂抑肝平肝ノ抑平ノ字ガチ
ヨツトタメコニテヲサエヘツケツリ引
ノバス所ヲリガフツビカセシト云ニハ非ス
唯メツタニ元ヤスキトテ此レヲニ

クムナリ肝ハ木ナルユヘ元レハ木克土ト
睥胃ヲウツヤウニ見ユルナリ東垣腎
ヲ補ンヨリ脾ヲ補ニハシカズ河間ハ又
脾ヲ補ヨリハ腎ヲ補ニハシカズ薛己ユ
レヲ各説ナリトテ用ヒ無病ノ人ニモ六
味地黄丸補中益氣湯ヲ常ニ服スベシト
此ニ至テハスル本ヲ失フテ来ルナリ
五藏ノウチニテ独リ脾腎ノトハナラヌ
モノナリ
疝浮ハ浮下スル中ニカタマリシモノアリ

茶物各其材ト云フモノ備リテアリ故ニ
 寒熱温涼ヲ以テ其説ヲナシカトシ宋
 以来ノ医家悉寒涼ニヨツテ其説ヲナス故
 ニ其所用ク方薬古方甚遠シ今水ヲ煮
 テ此ヲ問ニ人温熱トイワレハ是水ノ
 性火ニヨツテ温熱トナルモノナリ酒ノ
 如キハイカホド寒冷ニナシテモ其性ノ
 温熱終ニカワラズ薬品ニヨツキテ在石膏
 水銀ノ類ハ火ニワカサレテモ変スルト変
 ゼザルトアリ梅酸ノゴトキイカホドニ

消^{トラカシ}燥シテモ其酸キ^ト終ニ変ゼズルコノ
 類ニテ知ルベシ今巴豆ハ大熱ナリ熱レト
 モヨク脈中ヲ浮下ス此モ亦其材ナリ
 是故ニ用薬ハ其材ノ自然ニ備リタルモ
 ナリヨクセンギシテ用ベシ
 虚損ノ人渴シテ熱湯ヲ飲ントスルニ此
 虚陽ナリ獨寒ニテモ冷水ヲコノムト陽ヲ
 コノムトハカホドノ遠ヒアリ
 今ツヒ風邪ニ犯サルモノ其脉緊緩ヲ
 コノミテ風寒ヲワクルゾ

今ツヒ風邪ニ犯サルモノ其脉緊緩ヲ
 コノミテ風寒ヲワクルゾ

十六 雜病ニ脈中飢テ口食スルヲアタワズコ

ノモノ多ク口ノ辺リへ食ヲ持来リテ急
ニ不好ヤウナハ此虫ナリ唯ハフニミナリ

十七 テツカヘテ不能食ハコレ積氣ナリ

凡痛ノアルモノハ脈ヲ以テ緊弦ヲ見ス
太陽ノ症ノルイ頭痛ナドアルニ此ノ二脈

ナ見スモ此ナリ動ト緊ト相及シタヤウ

ナレドモ緊張ハ動ノ甚シキモノナリ此

二脈ナリナルト動ニナル依枕シテ引ハ

ルトハキミナゴフ

十八 動氣ノ遲ニ変スルハ正氣ユルニテ邪

氣ノ除クカタナリヨシハ遅カラダシク

脈カヒナリナリテ死ニ至ルト云フモ百

大ニ一人モ有ルナレト先ツ遅ノカタハ

ヨシ唯數デイルト云モノハイヤナモ

十九 陰虛ニテ陽陰ヲ侵スユヘ脈數ナリ

遲ハ陰カラ陽ヲカスナリ

二十 平常ノ人ハ小便不利スレバ多水腫トナ

ル今晝黃ハ小便ハ利スルナリ

九一

黃疸ハルソ脾ノ鬱結スルトコロヨシテ
生スルナリ

九二

痿症ハ脾ナドノ目ヲ歴テナルモノ、ヤ
ウニ思フニ然ラズ痺ハ手足テモナテ、

見ルニ我膚ノヤウニ思ハサレモナリ
痿ハ筋骨トモニ難用ナカウノナキモ

ナリ然レハ痺ヨリシテ然ルト云モノ
ハアラス乃チ別種ナリ

九三

或人間ヲ癱ナドニ參耆ヲ用ヒシヨリハ
雞或ハ鷄卵ナドノ類ヲ食シメテ其内

批ノ却ニサルベキヤ。先生曰ナルホド餌

食ノ以テ其功スニヤカナリ然レバ今參

耆モ女用テシモニ菜餌ヲナスベシ菜

ナニニテ菜餌ナキハ其人ヲク死ニ

至ルタトヘバ不死モ其病甚タ連綿タリ

菜餌リニニテ菜ヲ用ヒザレハ其害ナシ

ト是ニヘニ傷寒ナドノ外邦ニハ菜ヲ

才ニ服サシメ菜餌ナドハセズ菜味ヲ

才ニスルトコロヘ餌食ヲ相兼レバタト

ヘバ水ニアブグノ混ズルガゴトニアブグノ

凝位ニテ其水順流シエズ其性粗結ス
是故ニ内傷ノヤマヒニ菜餅ヲセズ菜ヲ
用ルコト大ニ誤レリタトヘ餅菜相兼ルト
イヘドモ此モ前ニヌゴトク油ノウチエ水
ノ入リタルゴトツ水ニ依リ油無用ノ
物トナリナリ然レバ只一方ノ菜ヲ專
用スル一甚タアヤコリナリ故ニ昔門ニ
内傷ノ諸疾唯菜餅ヲ專ラニ主トシ
テ方劑ハアヤカチニハ用ヒヌコトナリ

九四

問泄瀉ニ寒熱ノ別ヲ知ルハ如何師曰
瀉ヲハク寒瀉ニシテ熱瀉トモノ希
ナリ今滯食ナドアリテ邪熱サカニ
シテ吐瀉スルアリ又吐ナリシテ唯
瀉ノミアル此ウハ熱ナリ其外夏月ニ
瀉ナドニ至リテ悉ク寒瀉ナリ腸胃
ノ陽氣不順ニシテ其食物ヲ消化ス
ル一ナリガタキユヘ瀉ス水氣ニ依テ
瀉スルモトモニ寒瀉ナリ
痢ノ壞症此クセツキナリクセツクド云

九五

錢屋先生
診三湯先瘦
ナリ

卅九

于能消スルユハナリ虚勞ナドニテ死ニ至
ルニテ能食スルモノナリ
疝氣浮ハ温泉大ニヨリ錢屋庄三郎ナド
六年浮シタルニ但馬ノ温泉新湯ニ浴シ
テ終ニ愈タリ理中劑ヲ用テ止モノ
ニテナシ

卅

夏月依陰内ニ在リ故ニ夏月ハ冷食スベ
カウズ結^{ケツク}句余ノ時ヨリハ温食シテ可
此時小便閉スルモノ多ク是依陰ノ上へ
又冷食ナドヲシテ此ニナルナリ

卅一

問疝眼イカナルユヘニ畜ルヤ此目ハ濼ト
コロノ精氣疝虫ノタメニ消耗シテナル
モノナリンカ是疝虫内ニアツテ肝氣
トント鬱塞メ其養抗此断故ニ然ルト同
是故ニ其病如此ナルト愈

卅二

一婦人アリ先生ニ診テ請先生脈ヲ診シ
乳ヲ見テ此婦人者年既ニ産セルヤト問
フ然リト明日先生告メマフニ前日ノ婦人
ノ如キ乳ヲ見テ其ノ已ニ産セルナリ
ニル此證何レト所ニテカ見ルベキヤト

乃告タマフハ未産ノ婦人ソ其乳熟鶏卵ノ
如クシツコリトシテノ乳頭ニシツナシニ
産スル婦人ハ不然前日ニルトコロノ婦人
ハ産ハセシカトモ児リナムコトナキモノ
ナリ子ノスワザルモノノトイヘドモ
産セシノ子ハ乳ニユウノアリテシツ
コリトセズ乳頭モマシワアリ児ノ
ミシ乳ハ乳頭クロニモアリテ常ヨリハ
大キシクヨリ皺ハアリ今云フトコロハ
ノマザル乳ユヘコトグクハシカラザレド

常トハ遠ヒシワモアリテ又物体ニ乳ニ
ユウ出素ルゾ此モ見ルトコロノ證ナリ
ト

世三

又懐胎ノ兒男女ヲ知ルモ大テイ乳頭ノ
色ニテノミル女子ナレバ乳頭ノマワリタビ
黒色ニ紫ヲ兼テ見ル男子ナレバ黒イ口
ノトコロ赤色ニテツム

世四

一病又アリ在ノ下地ニシテ妾リニ恐懼
シ人ヲ見ルコトヲ惡ミ陋室ニ引コモリ
ナドシテ羊年モサノゴトニ其後ハ其氣

味漸くニヤミニテ手足ヲ拘攣シ舌本強リ
テ言語カタシコノトキ京都ニ来リ先生
ニ診ヲ請フ其心下イタノゴトク積氣ノ
勢ヒ甚乃脊際ニ灸セシメヒトニユウタン巢能膽ヲ用ヒ
タリコレニヨツテ其病余ホドユルクナリ
タリ其后一人狂下地ノモノアリ此ニ
因テ問テ曰前人ノゴトク拘攣スルタチ
ハ其病治シヤスシ只狂ハ治シカタカ
ラシ又始狂ノ如ク羊ニ拘攣ノキニ出テ来
テノ子ニ又狂トナルモノアリヤト

批五

先生曰前人ノ如ク羊ニ至リテ在ノ如ク
拘攣的ノ病ナリ之バモハヤ狂トハナラズ
其治モ亦ヤスシ唯狂トナルハ初ニナン
ルリルジニモナツク偏ニ積氣内ヲセメ
テ心コレガタメニ其職ヲウシトウ故ニ治
シガタシ外症ヲ見ヌハイカヨウニテモ
治シヤスシト又其始イカホド狂疾如
キニテモ羊ニ外症出来タルハモハヤ狂
トナルトナシ

先生痙病ヲ見テハ唯其ノ動クヨリセ
 ニテシテ欲シタマフ此レ其手足カナクワザ
 ルユヘヒトヘニ居スリミテ食フコノムユ
 へ^{テイタイ}停滞シテ消化シカタク此ヨリシテ
 諸疾蜂起ス痙トナリキカウハ其ノ
 病ノ治スルヲハチカノウチニナレハタビ
 其痙症ノコラシムベシ起
 テサルヤウニチタテテスルヨリ外ナ
 シ此トキ各護屋玄遠ノヲ引テ云
 此常言ナリ

ル時痙ホノ元氣大ニツカレタルニハ只摺
 參陽五錢煎等ヲ用ヒベシ不可為余業
 陽中生姜ヲ入ルナリ

患痙ハ大テイ業ヲ用ヒヌガヨシ大ガヒ
 ニシテ月ノウチニアルナリニ三月ノウ
 チニ胞胎墮ドリスルユヘニシカリ今妊
 スルトツレガ胃ノ袋ヲ上ヘモチ上ゲテ
 クルユヘニ胃トモヤウチガフソコテ
 是ヲトス然レドモ四五月モ経テハソレナ
 リニ胃モ落付キ最早ツルシカウズツレ

ハシイテ積氣ニヨルト云フコトニシテモ
ナシシ

平九

安胎ノ薬サセテアリトイヘドモ先ツハ
和^平芍^平枳^平ノルイヨリ主トシテ用ベシ

平

問妊娠ノ内ニ下血ナドスル婦人アリ是
ハハジメヨリ持病ナドニテ在アルモノ

ハ苦シカラズヤ先生曰下血常ハ大ブシ

下ルトイヘドモ大藥クルシカラズ妊娠

ノトキニハ其通りニシテハ置レズサレド

モ止ルモアモ大^平換^平芍^平ノ伏ノ類可也

平

又産前ニコロビナドシテ血ヲハク西道

ヨリ通ズルアリ先腰眼ニ灸スルヲ專

一トスベシ

平

胎下^平肢任脉通リ或ハソレテ無クト

モジツト塊ノ有ル婦人ハ多ク妊娠ハセ又

モノナリ免角積氣有ルトコロハ陽氣

行クザルモノナリをソレヲ勤スハ陽氣

ナレドモ其凝タトコロハ陰氣ナリザル

ユヘニ唯灸ヲ主ニスベシ

平

妊娠流産ノ二三日前ニ小便シゲキモノ

ナリソレハ胎下焦ニ在ツテ腰間ノタツ
リアシクナリテ大小使トモニコハロヨ
カフズヨククハ氣ヲ付ベシ小使洩ルト
謂ふ近キウチニ産アルコト知ルベシ
○^{五五}瘰癧ハ今エトコロノ汗すゞノコトナ
リ又コレヲ汗班トモイフ

○^{五五}先生曰今時ノ人虚実ヲ問ハズ多クハ積
氣アリ痰内ニ結ブ其故ハ生レ落ルト其
修風寒飲食思慮動作ニ傷ケレ積氣
トナレアリ是ニモカキラズ其親積氣アレ

其必ズ積氣アルナリ猶癩疾ノ相ツタヘ
瘡毒ノ相ウクルガコトニ

○^{五十六}酒盃鼻ハ酒多クノム人ニ生スルナリ酒
ヲハクバムトキハ酒氣尖上メムシツリ
ツサウサスルナリ或ハ目ヲヤメシメ又
ハ鼻ヅヤメシムルニ至ルトナリ
○^{五十七}男子積氣リウレユアリテノキ時寝感

ズ熱甚讖語ナドアリテ医ニ属シテ茶ヲ
服ス其元氣ヨホドツカレタリト泪ユル
邪モ大カタハ解ストイヘドモアト連綿

タリ先生コレヲ診スルニ積氣カケラズ
下へ衝テ大使秘スルヲ六七日ト因テ告
ルニ茶治ヲ止メテ可ナクンモハヤ邪氣
ノウレエハオシト覺ト拳家不信ニテ唯救
コトアタワザルユヘニ此語ヲナスト此
ニ於テ折言言ニテ拳家為ニ心ヲ安ス
ヨク茶餌ヲ止メ只食餌ヲナスト此ニ於テ
後大使モ通ズ日ヲ逐テ收ヲ覺ヘタリ此
病人其診シタニフトキモ才ニ大使秘
スルト云モノ大ナル仕合セナリ大方ハ

秘スルモノハソレホドニ元氣ノツカレハ
ナシトナリ

○^五稟

中氣參附ノルイヲ用テ人妻ヲ不知モ
ノサムルヲアリ又不用シテヒニモ
サムルモノアリタゞ食ノスムトスハ又ニ
於テ善惡アリ

○^五稟

四氣ノウ所暑ヲ云フヲ大ニ希ナリ本
中茶能ハトコロ風寒濕ハ言ヲ暑邪ジャノ
ヲ云フモノ大ニヤシ

○^五卒

瘡毒ノ目へ入ルモノ其始頭痛ヨリ

○空
セザルハナシシ皆頭痛スルモノナリ

火動一直ヨリナリテモ又タアシクナリ
テキツカヒノナイト云フニ至ルハ四五
年ヲモヘテハ知レ難シ隨分ト保養セ子
バナウヌコトゾ常ハモトヨリナリ痼疾
エヘトモニ一旦ノカタツキハナラヌ又モノ
ナリ

○空
積氣ヲ一度ニ碎ナト云フハナラヌ又ナ
リタトヘナルト云フテモ其アト氣満タ
ズエ却テアシカワクトスルナリ

○空
陽虛ハマダ脈微細數ナラズ此陽ノ虛ス
ルノ甚シカラザルユヘナリ陰虛ナレバ
微細類ナリ然レバ陰虛ト云ハ心陽ハ虚セ
ヌカト云ヘバサニアラズ陰虛トイヘバ陽
ハイヨク虚スルナリ世間ニナ陰虛
ナレハ陽ハ実スト心得テナレバ
誤リナリ

○空
痔下血等凡諸疾失血ノナリ血イテ復
セズニテ風寒ノ邪ニアタルモノナラズ
トナルアタラザレドモコシテ身中

ゴ合アニリナレハ勞大動トナリ慎ム
シナリ

○家書品目

行余医言 未刊

一本堂藥選 三冊

同 讀編 一冊

医史約説 門人斐希文述
先生周

摠庵先生談実下之修

雜病治方

中風傷寒

桂枝湯

麻黄湯

小青竜湯

葛根湯

麻黄桂枝各半湯

小柴胡湯

柴胡桂枝湯

白虎湯

小承氣湯

○治輕症之劑

卷大 朴 藿 羊

枳 木

一有耳草又有生姜三分枳实内中匙则去木香亦可也便泄去为茱加乾姜小

右七味内生姜三分水煎湿服

欲用麻黄汤之症轻剂

伏^大 朴 麻^中 香 羊

薑^生 木^小 耳^少

○中暑

人参白虎汤

小柴胡汤

建中汤^{一本}

○中暑轻症治方

伏^大 括^大 升 姜^中 以知母代

耳^少

右水煎湿服

○中湿

伏^大 藿 朴 枳 羊^中 木^小

耳^少

右水煎湿服

○瘧疾

右水煎湿服
朴一钱 椒目一分
薑生三分
霍中 乾姜

如常煎服

柴胡加桂枝汤

黄耆建中汤

桂枝白虎汤

小承气汤

附子理中汤

或加桂则去参亦可也加桂

减耳

乾吧噤口痢

黑丸子

一味熊膳

以独参汤送下之

小续命汤

桂枝汤

黄耆建中汤

痿

附子理中汤

黄耆建中汤

木附汤

奇已上四症宜用湿泉

○痛風

小續命湯

鶴膝風脚痛風壞症難治

麻黃桂枝各半湯

順氣之劑を可也

○痞積

黑丸子

一方

伏大

為

枳中

朴

枳

木小

車

○灸治

九推ヨリ十六推マテノ十ヲ見合セ

灸スベシ

○疝氣

伏大

為

烏頭

查或枳

木中

薑

耳少

○灸治

大指与痞積同或按之痛所可也天杞穴

灸之亦可也

○脚氣

伏

為大

凡中

若無木凡則以查大伏

茵陳五苓散

五苓散

○黃疸變症

參五分 木中

茯苓大

附小

車少

姜少

姜生五分

右水煎

○水腫

五苓散

加沉香

○輕症方

依

腹大

朴

霍

羊

枳中

沉小

或去沉香加附子

又方

○脹滿方

黑丸子

伏大 烏頭

附子 桂木

沉各小

膈噎

灸治与積聚同

○虛損

黃耆建中湯

加 茯苓 羊 括 母

當歸建中湯

婦人加 括 苓 柴 知

勞咳

一味熊膽

鱧魚

一味獺肝

灸治

黃耆建中湯

潤劑

泄瀉

附子理中湯

參附湯

治中散

伏大中薑水

藜中木少耳

或加霍或桂

○佛食

霍大木中

益智中

右振出用

批把葉散

胸膈似煩吧者加半棗不煩吧而小腹痛不止則

加枳木中

黑丸子

一味熊膽

附子理中湯

參附湯

○疹飲

菘大 枳

朴

半

薑

薑各小

木少 耳

右水煎

○咳嗽

女子ノ持病ニアルハトクテモ常咳ニナリタ

カル男子ハ火氣ゾ潤割ガヨイ

菘大 芍

歸

枳中

杏

知

桔 耳

右水煎

○頭痛

菘大 半

枳

朴

桔

木少

耳少 薑

胸痛

一味熊膽

奇應丸

黑丸子

伏大 半

枳

朴中

桔小

連少

耳 生姜

右水煎

○ 脇痛

桂枝湯

加柴胡

半苓

或去苓加木

○ 腹痛

為大木

枳

朴

薑

桂中

耳

黃春建中湯

惡苦味者用之

黑丸子

一味熊膽

調中散

○ 腰痛

建中湯

腰痛症雖有數症大抵屬症

○ 建中湯

屬虛症加附子芎歸木

伏

木

為

枳

朴

附

芎

耳

○ 足痛

黃春建中湯

初用加烏頭附子茯苓木通

麻大

為

桂中

細

耳

一有附子小之入

獨大

防已

附子

歸

芎中伏大

耳

○ 淋

伏通 大 芎 大 中 耳

○ 遺精

酸束 湯 代當歸以川芎加薯蕷

○ 痔

肛門或痛或傷者以熊膽塗之

灸治以腰眼為可

○ 脫肛

補中益氣湯

黃耆建中湯 加升 枳實

○ 爛目

防風 菊花 伏 升 桔 枳 耳

○ 瘡毒入眼

土茯苓 十 薏苡 五 芎 大 茶 二

耳 少

○ 吐血 ○ 衄血

百合知母湯

厄子栝皮湯

一味熊膽

三葉枲

陰干細末三升水三升用

○耳病

七味敗毒散

氣劑

熊膽

○鼻病

七味敗毒散

痛毛ノ用

○口舌

耳枯湯

加升廣黃苓

白虎湯

○牙疳

升廣葛根湯

加括苓

七味敗毒散

○咽病

耳枯湯

加防風升廣

已上終

○耳病

七味敗毒散

氣刺

熊膽

○鼻病

七味敗毒散

痛毛ノ用

○口舌

耳枯湯

加升升黃芩

白虎湯

○牙疳

升升黃芩根湯

加栝栝茶

七味敗毒散

○咽病

耳枯湯

加防風升升升

已上終

